



## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月10日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <https://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 島本 国一

問合せ先責任者（役職名） 取締役 副社長 （氏名） 寺島 洋一 TEL 03-5941-7682

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	21,402	6.6	199	△42.0	244	△29.5	142	△41.6
2023年3月期第1四半期	20,085	9.9	344	△14.7	347	△16.4	244	△11.0

（注）包括利益 2024年3月期第1四半期 528百万円（38.7%） 2023年3月期第1四半期 380百万円（0.7%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	8.83	-
2023年3月期第1四半期	15.00	-

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	62,374	37,177	59.6
2023年3月期	62,229	36,794	59.1

（参考）自己資本 2024年3月期第1四半期 37,177百万円 2023年3月期 36,794百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	8.00	-	9.00	17.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	10.00	-	15.00	25.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	87,400	6.1	1,220	-	1,300	667.8	570	17.4	35.05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
新規 一社、 除外 一社 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	16,476,000株	2023年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	350,578株	2023年3月期	350,578株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	16,125,422株	2023年3月期1Q	16,275,422株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、上記予想に関する事項は、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)におけるわが国の経済は、3年ぶりに行動制限のない大型連休を迎え、5月8日からは新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、飲食や旅行などのサービス消費やインバウンド需要が回復いたしました。一方で、外国為替市場では再び円安傾向が強まり、ウクライナ情勢などの地政学的リスクによる世界経済への影響も懸念されるなど、景気は依然として先行き不透明な状況となっております。

また、食用油や鶏卵をはじめとした原材料価格やエネルギーコストは依然として高値圏で推移していることから、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、次の成長へ向けた中期経営計画『KENKO Transformation Plan』の最終年度を迎えております。この中期経営計画は、前中期経営計画のC S V経営の考え方を継続し、社会と企業の共存を目指すために「企業価値向上と持続的な成長へ向けた変革」を基本方針とし、次の4つのテーマ及びサステナビリティ方針を軸に取り組を進めております。

## &lt;4つのテーマ&gt;

## ① B to B to C

消費者の皆様当社を直接知っていただく機会を増やす

## ② イノベーション

将来の地球環境を見据え、環境保全を意識した中からNew KENKOを創り出す

## ③ 構造改革

基盤事業の成長を目指すための改革実行

## ④ グローバル

グローバル事業の基盤強化

## &lt;サステナビリティ方針&gt;

当社グループは、持続可能な社会の実現に向け、「環境」「社会」「健康」への貢献を指標としたサステナビリティ方針を定め、次の5つの重要課題に取り組んでおります。

① 温室効果ガス ② 原料 ③ 容器・包材 ④ 健康 ⑤ 人財

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが「5類」へ移行したことや外国人旅行者の増加などの効果もあり、外食分野を中心に売上高の回復が進み、特にファストフード向け商品を中心に売上拡大を進めてまいりました結果、前年同四半期比で増収となりました。

(利益)

利益につきましては、原材料価格やエネルギーコストの高騰に対して、マヨネーズ類をはじめとした価格改定や経費削減等の収益改善を進めてまいりましたが、前年同四半期比で減益となりました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は21,402百万円（前年同四半期比1,317百万円の増加、6.6%増）、連結営業利益は199百万円（前年同四半期比144百万円の減少、42.0%減）、連結経常利益は244百万円（前年同四半期比102百万円の減少、29.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は142百万円（前年同四半期比101百万円の減少、41.6%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

サラダ・総菜類につきましては、価格改定効果に加えて、外食チェーンのプロモーションに採用されたことにより増収となりました。

タマゴ加工品につきましては、高病原性鳥インフルエンザ感染拡大の影響により鶏卵を安定的に確保することが困難な状況であったため、販売制限の対応をさせていただいたことにより減収となりました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、2022年10月から進めてまいりました更なる価格改定効果が増収に大きく寄与したことや量販店向けマヨネーズの売上が増加いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は16,697百万円（前年同四半期比1,066百万円の増加、6.8%増）、セグメント利益は22百万円（前年同四半期比168百万円の減少、88.4%減）となりました。

## (総菜関連事業等)

総菜関連事業等における経営環境は、量販店等の中食から外食へ需要が回帰する傾向にありましたが、当第1四半期連結累計期間において、価格改定の着実な実施や高単価品の開発・販売、販売カテゴリー拡大等を進めたことにより売上高が増加し、利益についても増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は4,472百万円（前年同四半期比266百万円の増加、6.3%増）、セグメント利益は231百万円（前年同四半期比51百万円の増加、28.3%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、62,374百万円（前連結会計年度比145百万円の増加、0.2%増）となりました。これは主に投資有価証券が549百万円増加した一方で、現金及び預金が470百万円減少したこと等によるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、25,197百万円（前連結会計年度比237百万円の減少、0.9%減）となりました。これは主に買掛金が374百万円増加した一方で、その他引当金が248百万円、1年内返済予定の長期借入金が213百万円減少したこと等によるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、37,177百万円（前連結会計年度比383百万円の増加、1.0%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、59.6%（前連結会計年度比0.5ポイント増）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月15日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,289	11,818
受取手形	65	67
売掛金	13,218	13,606
商品及び製品	2,514	2,792
仕掛品	15	17
原材料及び貯蔵品	1,092	1,326
その他	456	259
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	29,651	29,887
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,688	10,518
機械装置及び運搬具(純額)	7,711	7,260
土地	6,021	6,021
建設仮勘定	0	0
その他(純額)	315	292
有形固定資産合計	24,738	24,094
無形固定資産	807	921
投資その他の資産		
投資有価証券	5,582	6,132
繰延税金資産	178	100
その他	1,300	1,269
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	7,031	7,471
固定資産合計	32,577	32,487
資産合計	62,229	62,374

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,479	11,853
電子記録債務	845	1,013
1年内返済予定の長期借入金	1,144	931
未払法人税等	228	114
その他の引当金	456	207
その他	3,931	3,954
流動負債合計	18,087	18,075
固定負債		
長期借入金	4,321	4,171
退職給付に係る負債	347	309
その他	2,679	2,640
固定負債合計	7,348	7,122
負債合計	25,435	25,197
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	24,635	24,633
自己株式	△530	△530
株主資本合計	35,221	35,218
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,573	1,945
為替換算調整勘定	15	32
退職給付に係る調整累計額	△15	△19
その他の包括利益累計額合計	1,572	1,958
純資産合計	36,794	37,177
負債純資産合計	62,229	62,374

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	20,085	21,402
売上原価	16,034	17,550
売上総利益	4,050	3,852
販売費及び一般管理費	3,706	3,652
営業利益	344	199
営業外収益		
持分法による投資利益	—	9
受取利息及び配当金	19	17
その他	25	38
営業外収益合計	45	65
営業外費用		
支払利息	16	13
持分法による投資損失	16	—
その他	9	6
営業外費用合計	42	20
経常利益	347	244
特別利益		
持分変動利益	24	—
補助金収入	1	1
特別利益合計	26	1
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	373	245
法人税等	129	103
四半期純利益	244	142
親会社株主に帰属する四半期純利益	244	142

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	244	142
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△123	372
退職給付に係る調整額	0	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	259	17
その他の包括利益合計	136	385
四半期包括利益	380	528
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	380	528

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,631	4,206	19,837	247	20,085	—	20,085
セグメント間の 内部売上高又は振替高	230	1,881	2,112	—	2,112	△2,112	—
計	15,861	6,087	21,949	247	22,197	△2,112	20,085
セグメント利益又は損失(△)	190	180	370	△11	359	△11	347

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△11百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,697	4,472	21,170	232	21,402	—	21,402
セグメント間の 内部売上高又は振替高	260	1,762	2,023	—	2,023	△2,023	—
計	16,958	6,235	23,193	232	23,425	△2,023	21,402
セグメント利益	22	231	253	9	262	△17	244

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△17百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	4,251	—	4,251	—	4,251
タマゴ加工品	5,343	—	5,343	—	5,343
マヨネーズ・ドレッシング類	5,765	—	5,765	—	5,765
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	4,206	4,206	—	4,206
その他	270	—	270	247	518
外部顧客への売上高	15,631	4,206	19,837	247	20,085

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	5,398	—	5,398	—	5,398
タマゴ加工品	4,172	—	4,172	—	4,172
マヨネーズ・ドレッシング類	6,784	—	6,784	—	6,784
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	4,472	4,472	—	4,472
その他	341	—	341	232	574
外部顧客への売上高	16,697	4,472	21,170	232	21,402

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。